



コミ・プラ
マスコットキャラクター
「ホッホ君」



ふじみ町 公民館報

〒399-0211

長野県諏訪郡富士見町富士見 3597-1

コミュニティ・プラザ内 富士見町公民館

Eメール: kouminkan@town.fujimi.lg.jp

No.748

令和8年9月1日

発行 富士見町公民館
編集 公民館報編集委員会

TEL 0266 (62) 7900

FAX 0266 (62) 7611

～クマのことをもっと知ろう～



高原晴雨

「キノコから広がる世界」

ここ数年、娘がキノコに夢中なため、県内県外問わずいろいろな場所でキノコ探しをしていて、私までキノコ好きになってしまった。我が家が狙うキノコは食菌と言われる食べられるキノコだけではない。

珍しいキノコ、かわいいキノコ、美しいキノコ、毒も食も関係なく、琴線に触れるキノコを探し、出会ったら写真に残し記録をとって楽しんでいる。

当初は食べる目的で始まったキノコ探しだったが、徐々に食べるよりも様々な姿形、植物との関係性、役割などに興味が向かいはじめた。キノコを通して自然界を見ることで新しい発見が生まれ、今となつては一日一回数分でもいいからキノコを探しに行かないと気が済まない、という中毒症状が出ている。

そうこうしているうちに興味が拡がり始め、近頃は変形菌も探し回っている。湿った木や落ち葉の裏などにいることが多いので、時間を見つけてはルーベを片手に森を這いつくばって探す。そうして捕まえた変形菌を家で育てたりしている。一見、ただの変態に見えるかもしれないが、娘と私にとって共通の楽しみであり、我が家のチームワークを発揮するいい機会となっている。

ルーベで見る世界は、まるで肉眼で見ている世界の縮小のように感じることもある。私たちの身体のサイズでは小さすぎる世界が、とある生命体にとってはとても広く広い世界となっている。そう考えると、私たちのことを菌類のようにみている巨大な生命体も存在しているのだらうかと妄想することがある。私たちの生きている世界は何かにとっては大きく、何かにとっては小さくあるのかもしれない。

いろんな情報が飛び交い、いろんな知識がすぐに手に入る世の中だが、自分が知らないこと、まだ誰にも知られていないこともたくさんある。一生では学びきれないほどの世界。こんな地球に生きられて幸せだなと感じる日々だ。

菌類や変形菌探し、いつまで続くかわからないが、今のうちに私も一緒に楽しませてもらう。くれぐれもクマには気を付けて。ちなみに、変形菌は菌類ではない。気になった方はぜひ調べてみて欲しい。

後藤 万輝

特集

「森と共に生きる」 クマを知る」

近年、富士見町や原村でも人の生活圏でクマを目にしたという情報が告知放送などで共有されるようになってきました。

本曽の合同庁舎で行われた地域在住者向けの、「NPO法人信州ツキノワグマ研究会」によるクマについて学ぶ講座に参加させていただきました。今回の特集では、そこで学んだことをベースに、森で暮らすクマの二年を通じた行動サイクルや、クマの習性を念頭に置いた、人の生活圏内での対策をご紹介します。



通称「信州クマ研」講師の方による研修会。
(県内各地域において、子ども向けから大人向けまで対応してくれます)

環境の変化

長野県の山地に広がる森林は、本州でもっともツキノワグマの生息数が多いと推定されている地域です。ここ数年の増加率は微増なのですが、クマが滞在しやすい植物の生い茂った地域が広がってきているので、人の生活圏でクマを目にする機会が増えています。かつては炭焼きや子どもの遊び場として人の意識や手が入っていた里山が、クマが生きていきました。しかし、今はそのような里山が森林化しています。

クマの特性について のいろいろ

クマはそれぞれ胸元の月の輪の形が異なるのですが(月の輪模様がない個体もあります)、同様に性格や好物も異なります。ですが、基本的には怖がりな性質で、人の気配から遠ざかった場所で暮らしています。クマが人間を襲うのは、突然出会って驚いた時を含めて大半は自分や仔を守るための防衛的攻撃です。

一年を通じた食べ物と くらしのサイクル

3月下旬頃、冬眠から目覚めたクマは食べ物を探しながら活動を始めます。前年秋に落ちたどんぐりや、越冬できなかった鹿など動物の死体を食べることもあります。

親子連れの母グマは警戒心が強いので、仔グマを見かけたら注意です。春は山菜や木の新芽、タケノコ類、マムシグサやザゼンソウも食べます。

通常は単独で行動しているクマですが、5月から8月頃は交尾期なので、オスはメスをさがし、数日行動を共にすることもあります。初夏の食べ物は桑の実やサクラ類、サルナシやヤマブドウなどの液果類。蜜を集めるミツバチの巣だけでなく、朽ち木の中のアリの巣やスズメバチの巣など社会性昆虫も食べています。

夏の終わりはクマにとっては食べるものが最も少ない時期なので、食べ物を求めてより標高の高い高山帯へ移動する個体もありますが、人里に近いところまで来ることもあります。特に、アカマツ林の林縁はつる性植

物や低木が育ちやすく、クマの食べ物と滞在場所になるので注意です。

本格的な秋になると、人里近くまで食べるものを探しに来ていたクマも山奥に実るドングリ類を目指して大きく移動する時期です。昼も夜もたくさん食べて冬眠に備えます。

冬の森には大きな体に必要なエネルギーを維持できる程の食べ物がないので、何も食べず排尿も排便もせず、倒木などの根元や岩穴、木の洞などで冬眠します。母グマは冬眠中に1〜2頭の仔を産みます。1〜2歳で独り立ちするまで一緒に暮らします。



クマを引き寄せないために 生活の中でできること

●人がよく通る道路沿い

クマにいてほしくないところは草むらを作らない。クマが好む実のなる低木類や暗くて潜むのに快適な笹やぶは刈って見通しをよくすれば、クマが通ることはあっても、滞在しなくなる。ばったり出会わないために、ひとりりで歩く時は人の存在を知らせるためのクマ鈴を携帯したり、ラジオなどをながす。

●畑や果樹園・蜂の巣箱

トウモロコシやハチミツなどの味を知ったクマは餌付いてまた食べに来るので、被害が出る前に電気柵を巡らせる。柵に触れると痛み刺激を与える最適な強さの電流(6.0kV以上)が流れているか毎日確認する。

●燃料や塗料の保管

ガソリン・ペンキ・オイル・シンナーなどの臭いにも本能的に惹かれるので管理方法に注意する。

●キャンプ場・家の周り

臭覚が強いクマは人間の食料や生ごみの臭いに敏感。自然界にクマの食べ物が少ない夏は、甘い匂いのす

るスイカやメロンはコンポストの中でもクマを引き寄せるので、可燃ごみに出す。熟したゴーヤをそのままにしておかないなどの配慮があると安心。

人間の食べ物を美味しいものとして知ってしまうと、それに執着して人を恐れなくなります。自然界の食べ物だけで生きるという世界には戻れなくなるので、人里で獲れるものに餌付いてしまったクマは最終的に駆除の対象になる確率が高くなります。



塩ビのパイプも大きくて尖った犬歯で穴だらけになる。

おわりに

へアンブレラ種としてのツキノワグマ
みなさんはアンブレラ種という言葉をご存じでしょうか？

この地域では大型哺乳類のツキノワグマがこれにあたります。クマが連綿と命をつないでいける広範な自

然があるということが、クマを頂点とした食物連鎖の傘の下にいる膨大な生物種を生かすことにつながっていくという概念です。

クマも人もそれぞれの場所で安心してこれから先も暮らせるにはどうしていくのがよいのか、知恵を持ち寄って模索していかなければなりません。

岩田 良子



奥飛騨クマ牧場のツキノワグマ

〈参考文献〉

- ・信州版ツキノワグマハンドブック
- ・信州ツキノワグマ通信
- (NPO 法人信州ツキノワグマ研究会)

※信州ツキノワグマ研究会の講座依頼は、信州環境カレッジから申し込むと講師料が無料になります。